

平成 20 年 11 月 26 日・全国町村長大会
原伸一 全国町村議会議長会会長あいさつ

本日まで出席の町村長の皆様には、平素、町村行政の中核にあって、住民福祉の向上と地域の発展のため日夜、献身的なご努力と情熱を傾けておられますことに、心から敬意と感謝を申し上げる次第でございます。

振り返ってみますと、以前は、自分のふるさとだけでなく、地方を訪れますと、縁側でおばあちゃんがお孫さんと日向ぼっこをしていたり、稲刈りの終わった田んぼで子供達が元気に遊んでいる、そんな、のどかな原風景をどこに行っても見ることができました。昨今では、なかなか見ることがありません。

過疎化・少子高齢化の波が進行した今日、地方では人口が激減し、耕作放棄地は増え、集落の存立が危ぶまれる事態となっているところも少なくありません。加えて、私ども町村は、「平成の大合併」によって、この5年間で、町村の数は6割も減少することとなり、さらには、構造改革の名の元に、国の財政再建と経済合理性が優先され、地域間格差、自治体間の財政力格差がますます拡大しました。

地方は、また自立の道を選択した私ども町村も、職員の給与のカット、職員・議員数の削減など、まさに骨身を削るような、国を上回る行財政改革を断行して、住民とともに国土を支え、歴史・伝統・文化を守り、自然を活かした地場産業を創出し、個性あるまちづくりを懸命に進めてまいりました。こうしたところに、市場の原理を導入し、歳出削減だけを求め、国の関与を残すのであれば、豊かな自治をつくるどころではありません。

このような状況を打開し、真に地域を再生するには、まず、地方交付税など町村税財源の充実強化を図っていただき、我々町村が、自治能力を高め、都市と農山漁村が「共生」しうる地方分権型社会の構築を強力に進めていくことが重要であります。

本日も集まりの皆様方全員の力の結集により、全国町村会の声が国政にしっかり反映されることを願ってやみません。私ども全国町村議会議長会は、「町村が元気になることこそが、国が元気になることだ」との信念のもと、皆様方との結束をより強めて参りたいと考えております。おわりに、全国町村会のさらなるご発展とご参集の皆様方のご健勝とご活躍を祈念し、私の祝辞とさせていただきます。